

# 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年7月28日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2771602311
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	ケアポート大阪西吹田センターグループホームやすらぎ
所在地	吹田市出口町17番33号 (電話)06-4861-3672
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 7月 11日

### 【情報提供票より】(平成 20年 4月 30日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	10人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.2人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円			

#### (4) 利用者の概要 (平成 20年 4月 30日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	98歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会吹田病院、ちばクリニック、丹羽歯科医院
---------	------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周辺には図書館や保健所、福祉会館や公園などもあり、緑が多く利用者も穏やかに過ごすことができる環境にあります。ホームの運営理念として「安心・安全・信頼」をモットーに挙げ、家庭的であたたかい雰囲気の中で、みんなが主人公になり役割を持って穏やかに毎日を楽しく過ごせるような生活空間を作り出せるようなサービスが提供できるよう、職員もケア会議などで意見を出し合いケアの向上に努めています。毎月「やすらぎ新聞」を発行し、利用者の状況やホームの行事予定を家族に報告し、また家族からも意見や要望をできるだけ聞き、運営推進会議で取り上げ積極的な取り組みを行っています。会社との協力による「介護予防教室」の実施を行い、地域や関係事業所との連携や地域に密着した試みを行っています。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項については、改善内容を具体的に検討し迅速な取り組みが行われ、実践につなげるための努力を行っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	所長、管理者だけの意見ではなく、自己評価を全職員で行い、それぞれに意見を自由に発言しサービスの質の向上に努めています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヵ月に1回行われ、参加者は、家族代表者、市の地域包括支援センター、地域福祉委員、職員などで進められています。年に1回は家族にアンケートを取り、意向などを聞いて運営推進会議の議題として取り上げサービスの向上に活かしています。家族からの積極的な意見が多く、熱心な取り組みがうかがえます。また運営推進会議で取り上げた意見・要望に対しての現在の取り組み状況なども文章化しています。また会社との協力による「介護予防教室」の開催予定があり、地域と事業所との連携強化に向けた取り組みを行っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月「やすらぎ新聞」を発行し、利用者の状況やホームの行事予定、新人職員の紹介をお知らせしています。利用者の健康や安全に関わる事項については必要の都度家族へ電話連絡し、迅速な対応をしています。金銭については、ホーム独自の預り証や受領書を発行し、家族に確認いただいた上サインをもらっています。玄関先には意見箱を置き、意見や苦情を表せる機会を設けています。家族の面会があるときは積極的に話を聞けるよう配慮し、何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしています。アンケートなどにより得られた意見や意向は運営推進会議でも取り上げ検討しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域主催の夏祭りには、利用者は浴衣を着て参加し交流を図っています。地域にある障害者施設などとの交流もあります。定期的に吹田市のボランティアサークルが音楽療法に訪問してくれており利用者の楽しみや生きがいにつながっています。

## 2. 調 査 報 告 書

(   部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「安心・安全・信頼」をモットーに挙げ、家庭的であたたかい雰囲気の中で、みんなが主人公になり役割を持って穏やかに毎日を楽しく過ごせるような生活空間を作り出しサービスを提供しています。 会社との協力による「介護予防教室」の開催予定があり、地域と事業所との連携強化に向けた取り組みを行っています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関先に理念を掲示し、いつでも誰でもすぐに確認できるようになっています。 朝・夕の申し送り時には常に理念を確認し職員の意識共有を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域主催の夏祭りには、利用者は浴衣を着て参加し交流を図っています。地域にある障害者施設などとの交流もあります。音楽療法のボランティアサークルが月2回定期的に訪問しており、利用者の生きがいや楽しみの一つとなっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、意見については、それぞれ自由に発言することができ、サービスの質の向上に努めています。前回の外部評価で示された事項については、改善内容を具体的に検討し実践につなげるための努力を行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回行われ、参加者は、ご家族代表者、市の地域包括支援センター職員、地域福祉委員、職員などで進められています。年に1回は家族にアンケートを取り、意向などを聞いて運営推進会議の議題として取り上げサービスの向上に活かしています。ご家族からの積極的な意見が多く、熱心な取り組みがうかがえます。また運営推進会議で取り上げた意見・要望に対しての現在の取り組み状況なども文章化しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定例の事業者部会に参加したり、不明な点があった場合は市町村の介護保険課に相談したり、助言を仰いだりしています。また常に連携を図り、ケアサービスの質の向上に取り組んでいます。2カ月に1回のグループホーム、小規模多機能部会を実施し、市町村との連携を行っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「やすらぎ新聞」を発行し、利用者の状況やホームの行事予定、新人職員の紹介をお知らせしています。金銭については、ホーム独自の預り証や受領書を発行し、家族に確認いただいた上サインをもらっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先には意見箱を置き、意見や苦情を表せる機会を設けています。家族の面会があるときは積極的に話を聞けるよう配慮し、何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしています。アンケートなどにより得られた意見や意向は運営推進会議でも取り上げ検討しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や新人職員が入職した際、新人職員には馴染みの職員が付き添い、利用者とのコミュニケーションを図り、関係作りをしています。利用者には安心して過ごしてもらえるような配慮を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はできる限り多くの職員が参加できるよう勤務に配慮し、積極的に参加しています。外部研修の報告も記録として残し、全職員が目を通すようにしています。内部研修については年間の研修計画が組まれています。具体的にはこれからの取り組みとなっています。また「緊急時対応」の研修は実施されていない状況です。	○	職員間で利用者のことなどについて話し合い、検討しています。しかし、今後は内部研修の一環として各自の立場や経験、習熟度の段階に応じた研修を計画の中に組み込むことが望まれます。また年6回以上の研修の中に「緊急時対応」の内容を含むことが求められます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヵ月に1回の市の事業者部会に参加し、同業者との意見交換や交流を持っています。また他のグループホームの見学を行い、事業所外で得られた意見や経験を日々のケアに生かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には施設見学に来てもらったり、また職員が自宅を訪問したりする等、時間をかけてアセスメントを行い入居の際には不安のないように配慮しています。体験入居も行っており、徐々に馴染めるように心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	料理の苦手な職員が、利用者から料理の味付けを教わったり、一緒に料理を作ったりすることで利用者からたくさんを学び、一緒にできることを共に喜びあえる関係づくりができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の「できること」や「希望・要望」を把握し、少しでも何かわかった時はすぐに他の職員にも伝え共有しています。しかし利用者一人ひとりの「できること、できないこと」「好き、嫌い」などについては、全職員が確認し、把握できるよう文章にしておくことが望まれます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と家族の意向を踏まえ、介護職員もスタッフ会議で意見を述べ、利用者一人ひとりのその時点にそった個別的な援助内容を介護計画の作成に生かしています。介護計画には家族の同意として署名、捺印があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月に1回、もしくは変化があった場合にはその都度、介護計画の見直しを行っています。介護計画の援助内容を職員が把握し、日々のケアを行う際は意識しながら行っています。計画作成担当者はその内容も踏まえモニタリングを行い、実情に応じたケアにつながるように介護計画の見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のデイサービスセンターが併設しており、デイサービスでの夏祭り、運動会、音楽療法に参加しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者および家族が希望する、かかりつけ医療機関の受診は可能であり、認知症の専門医に通院する利用者もいます。その他、利用者や家族の希望でホームの協力病院の医師により、月2回往診を受けています。また、訪問看護ステーションからは週に1回、歯科医からは月2回訪問があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針に基づき、終末期のあり方について、主治医・家族・ホームの職員と共にカンファレンスを行い、家族の意向をふまえて方針を確認し、職員全員で共有しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の規定を設け職員と誓約を交わしています。職員は個人情報保護規定を常に目を通すようにし、スタッフ会議などでも周知徹底をしています。職員は利用者に優しく声かけを行い、穏やかに見守っている様子が見受けられました。排泄誘導の際にもプライバシーに配慮した声かけを行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や起床時間などは利用者一人ひとりのペースに合わせ自由に過ごされています。夜間眠れない方が眠くなるまで自由にテレビを見ていることもあります。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は食材を民間業者から納品してもらい、材料の野菜などは利用者と一緒に刻んだりして調理も手伝ってもらっています。食後の片付けも一緒に行っています。月に1回は利用者が中心でメニューを決め、買い物、調理を行い楽しみの一つとなっています。嚥下が困難な利用者にはミキサー食や刻み食を提供したり、食べやすくおにぎり提供したりする工夫もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3名程度の入浴としているため、体調により週3回入浴されていない利用者もいる状況です。希望により毎日でも入浴することは可能ですが、現在のところ希望する利用者はいない状況です。	○	人数制限することで、利用者の希望や意向を見出すことが難しくなっている状況を作っています。改善に向け検討はされていますが、今後は利用者一人ひとりの習慣や生活歴、好みを大切に、入浴支援を再度検討することが求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字が得意な利用者は自分の作品を壁に飾ってもらったり、また敬老会などイベントの際のプログラムを書いてもらったりして、意欲ある生活が送れるよう支援しています。 目が離せなかった利用者が、台所に立ち手伝ってくれたことがあり、「できること」の発見を職員も一緒に喜び、その利用者の張り合いを生かせる支援に取り組んでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者から希望があればいつでも外出し、近くの公園に散歩に行くこともあります。ホームの玄関先でお茶を飲み、楽しむこともあるなど開放的な支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	共有玄関とエレベーターは開錠しています。各ユニットの玄関は電子キーですが、スイッチのかぶせを開けることができれば中からも容易に開けることができます。かぶせが少し開けにくいように思われますが、利用者は慣れており、自身で開けて自由に出入りができるようになっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「緊急時のマニュアル」の作成は確認でき、年に2回、災害に備えた避難訓練を実施し、地域の消防署などとの協力体制はとれています。しかし、非常災害時の食料品や水などの備蓄を行っていない状況です。	○	非常・災害時のために食料品や水等を備蓄することが求められます。また「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成されてはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量のチェックが毎日確実にできており1日を通じて必要な水分、食事量の摂取ができるよう支援しています。納品される食材はカロリー計算されたもので、バランスよく栄養が摂れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口や共有の場所には椅子やソファが置いてあり、その時々に合わせて自由に使用できるようになっています。台所からは居間が見渡せるようになっており、食事を作りながら会話を楽しむなど、家庭的で暖かい雰囲気作りの配慮ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口にはそれぞれが作ったお気に入りの暖簾がかかっています。居室内は自身で作成された作品などを自由に壁に飾ったり、家族の写真や思い出のものを置いたりしています。一日に何度も洋服の着替えをされる利用者は洋服をハンガーに掛け、見えるところにたくさん置いてあり、本人が安心して過ごせるような配慮をしています。		